



愛西市GIGAスクール構想の 実現に向けたプロジェクト2024 (学習編)

2024 年 4 月 1 日

愛西市教育委員会
学校教育課

愛西市GIGAスクール構想の実現に向けたプロジェクト2024（学習編）目次

1 . はじめに	2
2 . 発達段階に応じた児童生徒の姿	3
3 . 【情報活用能力】	4
低学年	4
中学年	5
高学年	6
中学校	7
4 . 【情報活用スキル】	8
低学年	9
中学年	9
高学年	10
中学校	10
5 . 【情報モラル】	11
低学年	12
中学年	12
高学年	13
中学校	13
6 . 子どもたちが身につけたい” 情報活用能力” ” 情報活用スキル” ” 情報モラル” 表 ...	14
① 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用能力 (Ability to use infomation).	14
② 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用スキル (Skill to use infomation).	15
③ 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報モラル (Infomation morality)	16
7 . 【研修および授業支援について】	17
1 市教育委員会が企画する研修（例）	17
2 各学校で実施する校内研修（例）	17
3 ICT支援員の活用	18
8 . 【情報（実践例・指導案・研修会資料・官公庁の教育情報等）の集約と公開】	19
1 ICT情報の整理および公開（HPによる周知）	19

愛西市GIGAスクール構想の実現に向けたプロジェクト2024（学習編）

R6. 4. 1

1 . はじめに

最近のICT技術の発展は、めざましいものがあり、日々進化を遂げています。また、スマートフォンなどの携帯端末の普及に伴い、SNSなどをはじめとするコミュニケーションツールが、日常的に利用されるようになりました。

教育界においても、文部科学省のGIGAスクール構想により、令和2年をスタートに1人1台端末の学習環境が整備されました。学習活動の中で、タブレット端末が学習のツールとして位置付けられ、その活用方法について多くの事例が紹介されるようになりました。

タブレット端末を含めた機器の活用については、愛西市においても、各学校の努力により、様々な場面で活用が図られるようになり、授業の中でタブレットが日常的に使われるようになりました。しかしながら、各校の取組状況や教職員の力量等により、その活用については改善の余地がみられる場合もあります。

ここで愛西市として、各小・中学校での児童・生徒の発達段階に応じた取組の姿を定め、市内各校が共通認識をもってタブレット端末の活用の基本的な内容をまとめました。

基本的な内容については、発達段階に応じた”情報活用能力” ”情報活用スキル” ”情報モラル”を基本的な内容（指針）として3つの表に示しました。

今回示した基本的な内容を参考に、各校が、ある程度歩調を合わせてタブレット端末の活用を図ることで、愛西市のすべての児童生徒が、それぞれに個性を発揮し、デジタル機器を学習のための道具として活用することができると考えました。

また、実際の学校現場での活用が十分図られるように、タブレット活用のアイデアや実践例、デジタル化による校務の効率化に向けた例を共有する場を設けること、教員のデジタル活用能力に関する力量向上を図るための研修の場を設けることを積極的に進めていきます。

愛西市のGIGAスクール構想がめざす児童生徒の姿 デジタルの特徴や役割を理解して、 デジタル機器を主体的に活用できる児童生徒をめざします

<今後の方向性>

- ◎ 発達段階に応じた児童生徒の姿を別表に示し、小中学校でタブレット端末活用の基本的内容について、共通理解を図ります。
- ◎ 別表の改変は、各学校の実態を把握しながら、随時見直ししながら進めます。
(年度ごとをめどとします。)
- ◎ ICT活用に係る研修会を実施し、教員の力量向上を図ります。
- ◎ 具体的な実践例を集約して、共有を図ります。
- ◎ ICT活用にかかわる情報（実践例・指導案・研修会の資料等）をまとめたHPを構築し、各学校に公開します。（愛西市が管理するネットワーク内の公開に限定）

2. 発達段階に応じた児童生徒の姿

GIGAスクール構想の実現により、すべての児童・生徒が一人一台の端末を活用して学習を行うことができるようになりました。これにより、情報活用能力の育成がますます重要となっています。

本プロジェクトでは、小学校低学年から中学校までの各学年の子どもたちが身につけたい情報活用能力、情報活用スキル、情報モラルを、発達段階に応じて整理した表を作成しました。

これらの表は、GIGAスクール構想の実現に向けた情報活用能力の育成を図るための基本的内容です。今後、各学校において、これらの表を参考にした指導や教材・カリキュラムの開発等によって、デジタル機器を主体的に活用できる児童生徒の育成をめざします。

- ① 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用能力 (Ability to use information)
- ② 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用スキル (Skill to use information)
- ③ 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報モラル (information morality)

3. 【情報活用能力】

情報活用能力とは、課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、それをまわりに発信・伝達することができる能力と考えます。

表では、情報活用能力を以下の3つの要素に分けています。

- 調べる ●まとめる ●伝える

低学年

● 調べる

【情報メディアから気づく】

- ◎ 五感を通した直接体験やメディアから大切な情報に気づくことができる。

具体的な姿

- ・ 大切な事柄に注意を向けようとしている。〈図書・資料・文書・音声・ネット等から
- ・ 身近な人からお話を聞こうとしている。

● まとめる

【簡単な情報を作り出す】

- ◎ 自分の思いや考えを、絵や文章で表現することができる。

具体的な姿

- ・ 順序がわかるように語や文の接続に注意して書こうとしている。
- ・ 楽しんでまとめ・表現しようとしている。

● 伝える

【絵や言葉で伝える】

- ◎ 自分の考えや気持ちを周りの人に話したり、書き表したりすることができる。

具体的な姿

- ・ 順序を考えた話し方をしようとしている。
- ・ 大事なことを落とさないように聞こうとしている。

中学年

● 調べる

【目的に合わせて情報を集める】

- ◎ メディアから必要な情報を見つけ出し、メモをしたり、コピーしたりして収集できる。

具体的な姿

- ・ Webでの検索の仕方を理解して、進んで調べようとしている。
- ・ 目的に合ったインタビューの仕方を考えようとしている。

● まとめる

【簡単な情報を作り出す】

- ◎ 自分の思いや考えを、絵や文章で表現することができる。

具体的な姿

- ・ 順序がわかるように語や文の接続に注意して書こうとしている。
- ・ 楽しんでまとめ・表現しようとしている。

● 伝える

【文章にして伝える】

- ◎ 自分の考えを効果的にまとめることができる。

具体的な姿

- ・ 相手や目的に応じ、筋道を立てて伝えようとしている。
- ・ 相手の話したいことを考えながら聞こうとしている。

高学年

● 調べる

【様々な情報から必要な情報を選び出す】

◎ 情報収集の手段を選択し、自分に必要な情報を得ることができる。

具体的な姿

- ・ 情報メディアの種類に応じて調べ方を工夫しようとしている。
- ・ 情報メディアの内容や趣旨を把握しようとしている。

● まとめる

【自分の考えを効果的にまとめる】

◎ まわりに伝えることを意識し、機器の特性を考えて活用してまとめることができる。

具体的な姿

- ・ 意図を持って情報メディアを使おうとしている。
- ・ 伝えたい事柄を筋道を立ててまとめ、効果的に表現しようとしている。

● 伝える

【情報メディアを組み合わせる伝える】

◎ 自分に合ったメディアを選択し、情報を伝えることができる。

具体的な姿

- ・ 的確に自分の意図を伝えるために情報メディアの特性に合った使い方をしようとしている。
- ・ 相手の意図について考えながら聞こうとしている。

中学校

● 調べる

【効果的な情報から必要な情報を選び出す】

◎ 課題解決にむけて、効果的な情報手段を選び、必要な情報を収集することができる。

具体的な姿

- ・ 課題を解決するために、目的に応じた情報メディアを選択しようとしている。
- ・ 異なる情報手段や複数のWebページで収集した情報を比較しながら、目的とする情報を見つけようとしている。

● まとめる

【効果的な手段を考え、信頼できる情報にまとめる】

◎ さまざまな情報源から収集した情報を比較し、まとめることができる。

具体的な姿

- ・ 収集した情報メディアの特性を生かして整理しようとしている。
- ・ 収集した様々な情報を比較し、必要とする情報や信頼できる情報を吟味し、整理しようとしている。

● 伝える

【目的や意図に応じて情報を統合して伝える】

◎ 自分の考え等が伝わりやすいように表現を工夫して情報を伝えることができる。

具体的な姿

- ・ 課題の解決策を明らかにして発表しようとしている。
- ・ 発表の時間・場所等の制約の中で、聞き手に合わせて発表しようとしている。

4. 【情報活用スキル】

情報活用スキルとは、情報活用能力を身につけるために必要な技術的なスキルです。表では、情報活用スキルを以下の7つの項目に分けています。

1 入力 2 検索 3 写真 4 動画 5 プレゼン 6 レポート 7 思考ツール

1 入力（タイピング・文字の入力）

- ・ タブレット端末で文字を入力する方法には、キーボードを使って入力することが多いと思われます。ソフトキーボードによる入力やフリック入力も可能ですが、日常的にはキーボードによる文字入力にしっかり慣れた上で、自分に合った入力方法を選んで素早く入力することが望ましいと思われます。※低（文字の入力）→中（ローマ字入力）→高（ローマ字入力の習熟）→中学校（自分に合った入力方法で）

2 検索（情報検索：サファリ、ロイロノートなど）

- ・ インターネットによる検索では、『発信者』『発信の目的』『他の情報との比較』などを意識しながら、情報の吟味ができるようになることが望ましいと思われます。引用時には出典の明記をする指導も必要です。

3 写真（写真の撮影と加工：カメラ等）

- ・ 観察、実験、見学したことや自分の作品を撮影することで、まとめや学習のふりかえりに活用できます。また、色の調整や、トリミングなどの加工を経験することによって、「写真は加工できるので、必ずしも真実とは限らない」など、メディアを批判的に見る目を養うことが可能です。

4 動画（動画の撮影と編集：カメラ、iMovie、clips）

- ・ 観察や実験などの様子を動画で記録することで学習に生かすことができます。また、保健体育の機械運動や音楽の演奏を記録することにより、自分の姿を客観的に捉えることも可能です。さらに学習したことを人に説明できるように、1～2分程度の短い映像に編集することで、問題意識が高まり、より深く理解することができるようになります。

5 プレゼン（プレゼンテーション：ロイロノート、Keynote）

- ・ プレゼンテーションは、重要なスキルとして現代では認識されています。低学年では、紙芝居的に画面を説明することから始まり、学年が上がるにしたがって、構成を工夫して、より美しく印象的に伝えられるよう、工夫するスキルが必要となります。

6 レポート（レポート等の作成：ロイロノート、Pages等）

- ・ タブレット上で文章の作成をすることにより、文章の入れ替えや修正などが容易にできるので、文章を何度も推敲することが可能になります。また写真や図、グラフを加えてレイアウトすることが可能なので、新聞や、リーフレット、レポートといったものを作成することができます。

7 思考ツール（思考ツールの活用：ロイロノート、ジャムボード等）

- ・ 探究的な学習の際には、比較する、分類する、関連づけるなど、考えるための技法の活用が求められています。思考ツールを子どもたちが日常的に使いながら、その良さを実感し、自分で選んで使えるようにしていくことが重要です。

低学年

- 1 **入力**：手書きやひらがなのパッドで文字を書いたり、入力したりすることができる。
- 2 **検索**：特になし。
- 3 **写真**：カメラで撮影することができる。
- 4 **動画**：動画を撮影することができる。
- 5 **プレゼン**：ロイロノート等を使って、撮影したものを見せながら説明することができる。
- 6 **レポート**：ロイロノート等を使って、学習したことを簡単にまとめることができる。
- 7 **思考ツール**：簡単な思考ツールについて知る。

中学年

- 1 **入力**：低学年のスキルに加え、ローマ字入力で入力することができる。
- 2 **検索**：ロイロノートやブラウザを使って情報検索ができる。
- 3 **写真**：カメラで撮影した写真をトリミングすることができる。
- 4 **動画**：動画を撮影して学習に活かすことができる。
- 5 **プレゼン**：ロイロノート等を使って、スライドを提示しながら説明することができる。
- 6 **レポート**：ロイロノート（Pages）等を使って文書と写真等を組み合わせた新聞やリーフレットを作ることができる。
- 7 **思考ツール**：簡単な思考ツールを使って学習をすることができる。

高学年

- 1 **入力**：ローマ字表を見なくても、ある程度の速さでローマ字入力を行うことができる。
- 2 **検索**：目的に応じて情報を検索し、集めた情報を整理・分析することができる。
- 3 **写真**：カメラで撮影した写真の色の調整やトリミングすることができる。
- 4 **動画**：学習したことを説明するための短い動画を編集することができる。
- 5 **プレゼン**：ロイロノート・Keynote等を使って、プレゼンテーションを行うことができる。
- 6 **レポート**：ロイロノート・Pages等を使って、レイアウトを工夫して新聞やリーフレットを作ることができる。
- 7 **思考ツール**：目的に応じて思考ツールを効果的に活用して学習を行うことができる。

中学校

- 1 **入力**：様々な入力方法から、自分に合った入力方法を選んで素早く入力できる。
- 2 **検索**：目的に応じて情報を検索し、集めた情報を整理・分析し、内容を吟味することができる。
- 3 **写真**：カメラで撮影した写真の明度や彩度、コントラストなどの調整やトリミングすることができる。
- 4 **動画**：総合的な学習の時間等の学習内容をまとめる際に動画で編集することができる。
- 5 **プレゼン**：ロイロノート・Keynote等を使って、美しく印象的に伝えるプレゼンテーションを行うことができる。
- 6 **レポート**：ロイロノート・Pages等を使い、効果的なレイアウト等の工夫をして、レポート等にまとめることができる。
- 7 **思考ツール**：目的に応じて、自分で思考ツールを選んだり、組み合わせたりしながら学習を行うことができる。

5. 【情報モラル】

情報モラルとは、情報社会を生きる上で必要な倫理観や規範です。インターネットや携帯電話などの普及が急速に進み、違法・有害情報に起因する問題が多発する中で、児童生徒は情報内容を適切に判断できる能力が必要となっています。

文部科学省の「情報モラル指導モデルカリキュラム」を参考に「愛西市版 子どもたちが身につけたい情報モラル（Infomation morality）」を作成しました。作成にあたり、以下の5つの点から分類し系統的に配置しました。

- ①情報社会の倫理 ②法の理解と遵守 ③安全への知恵 ④情報セキュリティ
⑤公的なネットワーク社会の構築
-

① 情報社会の倫理

- ・ 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ（小学校）
- ・ 情報に関する自分や他者の権利を尊重する（小学校）
- ・ 情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす（中学校）
- ・ 情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する（中学校）

② 法の理解と遵守

- ・ 情報社会でのルール・マナーを遵守できる（小学校）
- ・ 社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを知る（中学校）

③ 安全への知恵

- ・ 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる（小学校）
- ・ 情報を正しく安全に利用することに努める（小学校）
- ・ 安全や健康を害するような行動を抑制できる（小学校）
- ・ 危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する（中学校）
- ・ 情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける（中学校）
- ・ 自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる（中学校）

④ 情報セキュリティ

- ・ 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る（小学校）
- ・ 情報確保のために対処策がとれる（小学校）
- ・ 情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける（中学校）
- ・ 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる（中学校）

⑤ 公的なネットワーク社会の構築

- ・ 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ（小学校）
- ・ 情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動が取れる。（中学校）

低学年

① 情報社会の倫理

- ・ 約束や決まりを守る。
- ・ 人の作ったものを大切にする。

② 法の理解と遵守

- ・ 該当なし

③ 安全への知恵

- ・ 不適切な情報に出会わない環境で利用する。
- ・ 知らない人に連絡先を教えない。
- ・ 決められた利用の時間や約束を守る。

④ 情報セキュリティ

- ・ 該当なし

⑤ 公的なネットワーク社会の構築

- ・ 該当なし

中学年

① 情報社会の倫理

- ・ 相手への影響を考えて行動する。
- ・ 自分の情報や他者の権利を尊重する。

② 法の理解と遵守

- ・ 情報発信や情報をやり取りする場合のルール・マナーを知り、守る。

③ 安全への知恵

- ・ 情報には誤ったものもあることに気づく。
- ・ 個人の情報は、他人に漏らさない。
- ・ 健康のため利用時間を決める。

④ 情報セキュリティ

- ・ 認証の重要性を理解し、正しく利用できる。

⑤ 公的なネットワーク社会の構築

- ・ 協力し合ってネットワークを使う。

高学年

① 情報社会の倫理

- ・ 他人や社会への影響を考えて行動する。
- ・ 情報にも自他の権利があることを知り、尊重する。

② 法の理解と遵守

- ・ 何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に使わない。
- ・ 「ルールやきまりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する。

③ 安全への知恵

- ・ 情報の正確さを判断する方法を知る。
- ・ 不適切な情報であるものを認識し、対応できる。
- ・ 自他の情報を第三者に漏らさない。
- ・ 人の安全を脅かす行為を行わない。

④ 情報セキュリティ

- ・ 不正使用や不正アクセスされないよう利用できる。
- ・ 情報の破壊や流失を守る方法を知る。

⑤ 公的なネットワーク社会の構築

- ・ ネットワークは教養のものであるという意識をもって使う。

中学校

① 情報社会の倫理

- ・ 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する。
- ・ 個人の権利（人格権、肖像権など）や著作権などの知的財産権を尊重する。

② 法の理解と遵守

- ・ 違法な行為とは何かを知り、違法だと分かった行動は絶対しない。
- ・ 情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや、法律の内容について知る。

③ 安全への知恵

- ・ 情報の信頼性を吟味できる。
- ・ 自他の情報の取り扱いに関して、正しい知識をもって行動している。
- ・ 自他の安全面および健康面に配慮した情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる。

④ 情報セキュリティ

- ・ 情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。
- ・ 基礎的なセキュリティ対策が立てられる。

⑤ 公的なネットワーク社会の構築

- ・ ネットワークの公共性を意識して行動する。

6. 子どもたちが身につけたい ” 情報活用能力 ” ” 情報活用スキル ” ” 情報モラル ” 表

① 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用能力 (Ability to use information)

① 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用能力 (Ability to use information)2024				
	低学年	中学年	高学年	中学校
調べる	情報メディアから気づく ○大切な事柄に注意を向けようとしている ○身近な人のお話を興味深く聞こうとしている	目的に合わせて情報を集める ○Webでの検索の仕方を理解して、進んで調べようとしている ○目的に合ったインタビューの仕方を考えようとしている	さまざまな情報から必要な情報を選び出す ○情報メディアの種類に応じて、調べ方を工夫しようとしている ○情報メディアの内容や趣旨を把握しようとしている	効果的な情報から必要な情報を選び出す ○課題を解決するために、目的に応じた情報情報メディアを選択しようとしている ○異なる情報手段や複数のWebページで収集した情報を比較しながら、目的とする情報を見つけようとしている
	簡単な情報をつくりだす ○順序がわかるように語や文の接続を考えて、まとめ・表現しようとしている ○楽しんでまとめ・表現しようとしている	情報メディアを使ってまとめる ○相手や目的に応じ、段落相互の関係を意識してまとめようとしている ○適切に表現しようとしている	自分の考えを効果的にまとめる ○意図を持って情報メディアを使おうとしている ○伝えたい事柄を筋道を立ててまとめ、効果的に表現しようとしている	効果的な手段を考え、信頼できる情報にまとめる ○収集した情報メディアの特性を生かして整理しようとしている ○収集した様々な情報を比較し、必要とする情報や信頼できる情報を吟味し、整理しようとしている
	絵や言葉で伝える ○順序を考えた話し方をしようとしている ○大事なことを落とさないように聞こうとしている	文章に表して伝える ○相手や目的に応じ、筋道を立てて伝えようとしている ○相手の話したいことを考えながら聞こうとしている	情報メディアを組み合わせて伝える ○的確に自分の意図を伝えるために情報メディア特性に合った使い方をしようとしている ○相手の意図について考えながら聞こうとしている	目的や意図に応じて情報を統合して伝える ○課題の解決策を明らかにして発表しようとしている ○発表の時間・場所等の制約の中で、聞き手に合わせて発表しようとしている

参考 草津市アクティブラーニング情報活用能力系統表

② 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用スキル (Skill to use information)

② 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報活用スキル (Skill to use information)2024

	低学年	中学年	高学年	中学校
入力	手書きやひらがなのパッドで文字を書いたり、入力したりすることができる	低学年のスキルに加え、ローマ字入力で入力することができる	ローマ字表を見なくても、ある程度の速さでローマ字入力を行うことができる	様々な入力方法から、自分に合った入力方法を選んで素早く入力できる
検索		ロイロノートやブラウザを使って情報検索ができる	目的に応じて情報を検索し、集めた情報を整理・分析することができる	目的に応じて情報を検索し、集めた情報を整理・分析し、内容を吟味することができる
写真	カメラで撮影することができる	カメラで撮影した写真をトリミングすることができる	カメラで撮影した写真の色の調整やトリミングすることができる	カメラで撮影した写真の明度や彩度、コントラスト等の調整やトリミングすることができる
動画	動画を撮影することができる	動画を撮影して学習に活かすことができる	学習したことを説明するための短い動画を編集することができる	総合的な学習の時間等の学習内容をまとめる際に動画で編集することができる
プレゼン	ロイロノート等を使って、撮影したものを見せながら説明することができる	ロイロノート等を使って、スライドを提示しながら説明することができる	ロイロノート・Keynote等を使って、プレゼンテーションを行うことができる	ロイロノート・Keynote等を使って、美しく印象的に伝えるプレゼンテーションを行うことができる
レポート	ロイロノート等を使って、学習したことを簡単にまとめることができる	ロイロノート (Pages) 等を使って、文章と写真などを組み合わせた新聞やリーフレットを作ることができる	ロイロノート・Pages等を使って、レイアウトを工夫して新聞やリーフレットを作ることができる	ロイロノート・Pages等を使い、効果的なレイアウト等の工夫をして、レポートなどにまとめることができる
思考ツール	簡単な思考ツールについて知る	簡単な思考ツールを使って学習をすることができる	目的に応じて、思考ツールを効果的に活用して学習をすることができる	目的に応じて、自分で思考ツールを選んだり組み合わせたりしながら学習をすることができる

※ パスワードやアンケートの方法、メールの使い方等他にも項目を追加していくことも考えられます。

参考 熊本市版 ICT教育モデルカリキュラム

③ 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報モラル (Infomation morality)

③ 愛西市版 子どもたちが身につけたい情報モラル (information morality)2024			
低学年	中学年	高学年	中学校
情報社会の倫理			
・約束や決まりを守る ・人の作ったものを大切にする	・相手への影響を考えて行動する ・自分の情報や他者の権利を尊重する	・他人や社会への影響を考えて行動する ・情報にも自他の権利があることを知り、尊重する	・情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する ・個人の権利(人格権、肖像権等)や著作権等の知的財産権を尊重する
法の理解と遵守			
	・情報発信や情報をやり取りする場合のルール・マナーを知り、守る	・何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない。 ・「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する。	・違法な行為とは何かを知り、違法だと分かった行動は絶対に行わない。 ・情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや、法律の内容について知る
安全への知恵			
・不適切な情報に出会わない環境で利用する ・知らない人に連絡先を教えない ・決められた利用の時間や約束を守る	・情報には誤ったものもあることに気付く ・個人の情報は、他人に洩らさない ・健康のために利用時間を決める	・情報の正確さを判断する方法を知る ・不適切な情報であるものを認識し、対応できる ・自他の情報を第三者に漏らさない ・人の安全を脅かす行為を行わない	・情報の信頼性を吟味できる ・自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動している ・自他の安全面および健康面に配慮した情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる
情報セキュリティ			
	・認証の重要性を理解し、正しく利用できる	・不正使用や不正アクセスされないよう利用できる ・情報の破壊や流失を守る方法を知る	・情報セキュリティの基礎的な知識を身につける ・基礎的なセキュリティ対策が立てられる
公的なネットワーク社会の構築			
	・協力し合ってネットワークを使う	・ネットワークは共用のものであるという意識を持って使う	・ネットワークの公共性を意識して行動する

参考 「情報モラル指導モデルカリキュラム表」 (文部科学省委託事業)

7. 【研修および授業支援について】

教職員の研修については、市教育委員会が企画する研修と、各学校が実施する研修があります。また、その他には県教育委員会主催の研修や各種団体の研修もあります。

市教育委員会が企画する研修は、新規採用者・市外からの転入者で、タブレットの操作の習熟を図りたい者を対象にした講座や、各教員のタブレット操作の習熟度に応じたレベルごとの講座などが考えられます。

各学校が実施する校内研修は、各校の教育目標や、重点課題への取り組み強化、授業力向上を図るための研修が考えられます。その際には、ICT支援員が中心となって研修や情報提供を行うことも効果的です。全ての教職員がタブレット端末を有効に活用できるよう、様々な機会を利用して研修を深め、一人一人の力量向上を目指します。

1 市教育委員会が企画する研修（例）

- ◎ タブレット端末活用の基礎
- ◎ シンキングツールの活用
- ◎ ロイロノート基礎講座（R4年度実施）
- ◎ ロイロノート応用講座
- ◎ Google form活用研修（R4年度実施）

etc…

2 各学校で実施する校内研修（例）

- ◎ 年度当初の確認事項
- ◎ 利用する上で
- ◎ 効果的な授業での活用方法
- ◎ iPadの使い方
- ◎ プログラミング学習
- ◎ ロイロノート
- ◎ eライブラリー

etc…

3 ICT支援員の活用

各学校の教員の力量向上と効果的な授業展開に欠かせないのが、ICT支援員による授業支援です。現在7名のICT支援員が月に4回程度各校を訪問し、ICT活用についてのアドバイスを積極的に送っています。愛西市内の各学校でタブレット端末が積極的に活用されているのは、ICT支援員のこれまでの学校支援の成果であり、学校にとってICT支援員はなくてはならない存在となっています。また、愛西市のICT支援員は専門的知識が非常に高く、優秀な人材が派遣されています。

業務内容については、以下に示す通り多岐にわたっており、ICT活用の充実に寄与しています。

- ◎ 授業や研修に必要な教材やソフトウェア紹介
 - ◎ 校務で使用するソフトウェアの紹介・設定・操作方法案内
 - ◎ 機器やソフトウェアの効果的な活用のアドバイス
 - ◎ 情報モラルに関する教材紹介
 - ◎ 授業や研修等で使用する機器の簡単なメンテナンス
 - ◎ 教育情報化推進に関する諸対応
 - ◎ 授業に必要なサイトやアプリの提案
 - ◎ 授業・研修で使用するマニュアル作成
 - ◎ 年次更新時における端末の確認作業や支援の依頼
 - ◎ iPadの故障原因の確認・初期化対応
- etc…

8. 【情報（実践例・指導案・研修会資料・官公庁の教育情報等）の集約と公開】

1 ICT情報の整理および公開（HPによる周知）

市内の学校間の教育情報の共有と連携を図ることは、市全体の教育レベルの向上と均一化や教員の業務改善に効果があると考えています。各情報を一覧できるHPを作成して共有を図ります（愛西市が管理するネットワーク内に限定）。共有する内容は、以下のものが考えられます。

- ◎ 各校で実施した学習指導案
- ◎ ヘルプデスクから各校への関連情報
- ◎ 各学校での実践例
- ◎ 研修会等の資料
- ◎ 文部科学省・愛知県教育委員会等の教育情報
- ◎ 各校でICT支援員が作成した資料

etc…

【TOPページの例】



【研修会資料の例】



【指導案の例】

